

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No. - (事務局用)	タイトル 公共交通で豊かなまちづくり	自治体名 八戸市
アイデア名 (注2) (公開)	八戸市のバスナビシステムにプラスα		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名 (公開)	愛仲良		
チーム属性 (公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input checked="" type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数 (公開)	6名		
代表者情報	小野寺 真那		
メンバー情報	氏名 (公開)	小守 優月、相内 香蓮、宇野 真歩、石田 うらら、坂本 ひかる	

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
 

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

バスの利用客が少ない。

八戸市の便利なバスアプリがない。

バスの時刻、路線、乗り方がわからない人がいる。

<解決アイデアの内容>

私たちは、今年 COG に参加し、バスの利用者が少ないことが分かりました。目的地までこのバス停を利用すればよいかわからない人が多い、そして「なんでもわかるバスアプリ」をアイデアとして考えたが、web 上にバスナビシステムがあるということを知りました。しかし、それは便利ではありますが知名度が低いです。

そこで、バスナビシステムをアプリ化して、バス停や店、公共施設などにそのアプリの紹介（QR コード）などを付けることで多くの人にバスナビシステムを知ってもらうことができると考えました。また、プラスしてアプリで調べてくれたらバスの割引クーポンがもらえるようにします。

<アイデア内容>

### 1. バスナビシステムをアプリ化して QR コードを貼る

バスを利用する人が、目的地までどのバスを利用すればよいかわからない時にバスアプリを活用する。より多くの人々がバスのアプリを利用できるようにするには、より多くの人が見ることできるように駅、電柱、バスの側面、バス停や店、自動販売機、公共施設などにそのアプリの紹介（QR コード）などを付ける。そうすることで、多くの人にアプリを知ってもらうことができる。

#### ・QR コードを貼る場所

バスの側面 バス停 病院 駅 電柱 自動販売機 コンビニ 飲食店  
スーパー など

バスを利用したいと思う場所で PR することにより、情報をほしがっている人に分かりやすく提供できる。

## 2. 割引制度を導入

アプリをインストールしたら初回特典をはじめとして、そのアプリの利用回数に応じてコンビニやバスの割引クーポンがもらえるようにする。アプリの利用率・利用者数が増加することで、バスの利便性が良くなり、利用者の増加につながる。

バスナビシステム

<https://city-hachinohe.bus-navigation.jp/wgsys/wgp/search.htm>

この二つを実施することで多くの世代の人にバスの利用を促すことができ、利用客増加につながる！！

## (2) アイデアの理由（公開）

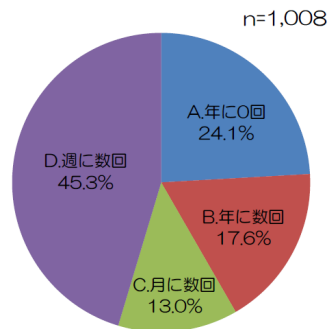
このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

### ●なぜバスの利用客が増えないのか

#### ・バスの利用頻度

##### ●設問2 バスを利用する頻度を教えてください。

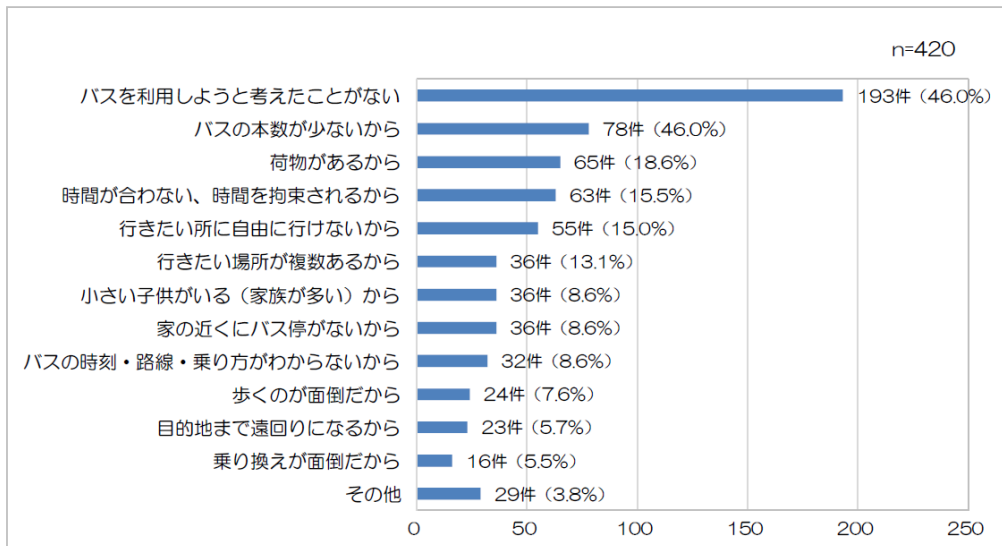
選択肢	件数
A.年に0回	243
B.年に数回	177
C.月に数回	131
D.週に数回	457
合計	1,008



引用元：平成29年度八戸公共交通アテンダント乗継案内・モビリティマネジメント業務報告書

- ・半数以上の人、あまりバスを利用していない。
- ・日常的にバスを利用している人は半数程度。

#### バスを利用しない理由



引用元：平成29年度八戸公共交通アテンダント乗継案内・モビリティマネジメント業務報告書

#### バスを利用しようと思ったことがない人が多い理由

- ➡自家用車を利用したほうが行きたいところにピンポイントで行ける。

バスを利用しようと考えたことがない人がバスを使う利点

- ・イベントなどで駐車場を利用する際の料金を軽減することができる。
- ・車の維持費がかからない
- ・Co2 の排出量が少ないため環境に優しい
- ・事故の加害者にならない
- ・車とは目線の高さが違うのでいつもは気づかないものに気付ける。
- ・車より歩いたりする分カロリー消費が多く肥満率が低い。

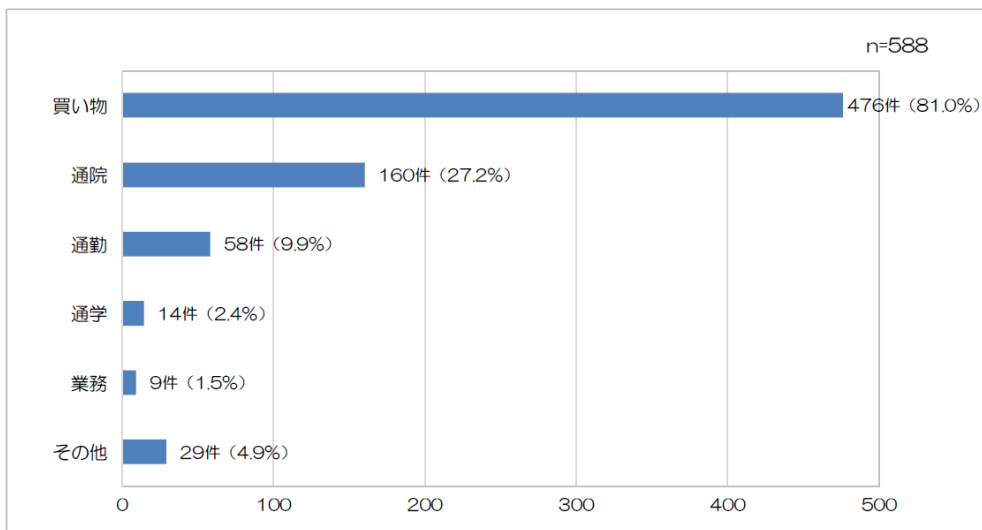
・バスの利用目的

●設問4 バスの利用目的を教えてください。(複数回答可)

選択肢	件数
買い物	476
通院	160
通勤	58
通学	14
業務	9
その他	29

その他の内容

- ・習い事。(他 6 件)
- ・飲み会のとき。(他 5 件)
- ・遊びに行くとき。(他 2 件)
- ・趣味のため。(他 2 件)
- ・観光。(他 2 件)
- ・ジムや公園にスポーツをしに行くとき。(他 1 件)
- ・旅行で八戸駅を利用するとき。
- ・中心街へ行くとき。
- ・用事があって出かけるとき。
- ・疲れたら散歩の帰りに使う。
- ・交通規制のとき。



引用元：平成 29 年度八戸公共交通アテンダント乗継案内・モビリティマネジメント業務報告書

バスの利用目的として、買い物や通院で利用する人が多い。このことから

- ・バスアプリの QR コードを貼る場所を公共施設や病院などにする事で、多くの人が QR コードを見てくれる。そしてアプリをもっと広めることができる。
- ・アプリを多く利用して受け取ったクーポンを市内のコンビニで使えるようにする。

## ● バスナビシステムをアプリ化するメリット

- ・クーポンの機能を導入できる。
- ・プッシュ通知を受け取ることができる。
- ・使いたいときにすぐに調べられる。
- ・自分がよく使うバス（時間、目的地、経由地）を登録できる。
- ・家族もアプリをインストールすれば帰宅時間を自動通知できる。

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

バスナビシステムをアプリ化する許可を市の交通局にお伺いする。



市営バスの本社に運賃の割引制度の導入について、バスやバス停にQRコードを付けてよいか許可をいただく。



許可が出たら

システムの所有者（市）に企画説明をして制作していただく。



八戸限定の特典クーポンについて、コンビニ本社にクーポンについて許可をいただく。



QRコードをつけてよいか公共施設や店、病院、自動販売機を置いている店に交渉する。



良ければ

バス停、公共施設、病院、店などに QR コードを貼ってもらう。